

2008あいち平和行進ニュース



2008.6.10 11 TEL052-932-3219 FAX052-931-2651 愛知県原水協内
あいち平和行進のHP <http://jmpd.jp/~peace/peacewalk/home.html>

一宮市役所 JR木曾川駅コース 18km

郷中公園(豊明市役所東側) コープとよあけ店コース 2.7km

240人(計5,730人)が参加! 沿道募金 21,555円(計312,172円)

「すみやかな核兵器の廃絶のために」の署名 262筆(計2,665筆)

行進ペナント9本(計180本) 自治体協賛金16,000円(計118,000円)

本日、政府は、原告の被爆者全員が勝訴した5月28日の仙台高裁及び5月30日の大阪高裁判決に対する、上告の断念を発表

本日、政府は、原告の被爆者全員が勝訴した5月28日の仙台高裁及び5月30日の大阪高裁判決に対する、上告の断念し、日本原水爆被害者団体協議会、原爆症認定集団訴訟全国原告団、原爆症認定集団訴訟全国弁護団連絡会の3者がこれに対し、以下の声明を発表した。

政府の上告断念は、司法の判断に従うべき行政府として当然のことである。集団訴訟において、初の高裁判決が確定したことは重大な意義を有するものであるが、政府は、「他の高裁の判断を仰ぐ」と述べて、全国15地裁、4高裁において係属している訴訟においてさらに争う姿勢を崩していない。また、仙台高裁判決では要医療性の判断の誤りが、大阪高裁判決では、今年4月から開始された新認定基準の不十分さが明らかになったにもかかわらず、これを再改訂することも拒んでいる。

原告305名のうち、既に50名が亡くなり、5月28日の大阪高裁判決後にも原告が亡くなった。もはや原告・被爆者には一刻の猶予もない。にもかかわらず、政府の上告断念のみでは訴訟が続き、不十分な新認定基準も変わることもない。原告・被爆者にとっては、これでは解決とは言えない。こうした姿勢は、原告や被爆者の願いを裏切るものであり、強く抗議する。

私たちは改めて、下記の2点につき、福田総理大臣の決断を求めるものである。

1 新認定基準の再改訂を指示すること。

本年4月から始まった新認定基準は、仙台、大阪両高裁判決の水準からもほど遠いものである。

しかも、新認定基準における「総合判断」の内容、根拠については、全く不明であって、集団訴訟の長期化は避けられず、認定の却下によって新たな集団訴訟へと発展することは必至である。

そこで、審査の方針の冒頭に被爆者救済の理念を示すこと、少なくとも、がんに関する時間や距離の制限を撤廃すること、被爆実態に見合った幅広い疾病を積極認定の対象とすること、総合的判断のあり方を明示すること、医療分科会を真に被爆の実情を理解した者によって構成されるように抜本的に改革することの5点を反映した認定基準に再改訂すべきである。

2 集団訴訟を提起している305名の原告について、ただちに原爆症と認定し、訴訟の全面的な解決を図ること。

仙台、大阪両高裁判決が示した基準により認定判断を行なうなら、現在提訴している305名の原告全てが原爆症と認定しうることは疑いない。誤った認定基準による誤った却下処分に固執し、争いをさ

らに続けることは、被爆後63年経った後もなお、被爆者を更に苦しめるものである。ただちに原告全員を原爆症と認定し、訴訟の全面的な解決を図るべきである。

以上

< 一宮コース >

大変暑い日でしたが、休憩の時にはしっかり給水を取り、がんばりました。車いすの方も途中まで、参加していただきました。お疲れ様でした。

一宮市役所前での出発集會に、被爆者の会から10人が参加



司会は、本日の指揮者でもある、一宮地域原水協事務局長の塚本さん。ここは、市議会からは木村議長が、市当局からは一色企画部長が参加。圧巻は、10名がずらりと並んだ、一宮被爆者の会の皆さん。代表して、原告の森さんが挨拶されました。恒例となっている、協賛金とペナントは今年も、市と議会からともいただきました。また、行進団に折り鶴がプレゼントされました。

木曾川庁舎でのまとめ集會

庁舎の課長さんのご挨拶を今年も受けました。全国通しの米山さんは、ここ数日間の障害者とともに歩く行進（一日2コース以上あるところ）の様子を報告されました。県内通し行進者からの発言、参加者からの発言、沿道募金カンパ隊からの報告などしていただき、まとめの集會となりました。

尾張健友会からは、若者を中心に今年も沢山のみなさんが参加。「平和を守ることの大切さを身をもって体験」「いろいろの方をお話しできてよかった。いろいろなことを考えさせられた」「歩くことが世界を変えていく原動力ですね」と若手が次々と発言しました。

< 豊明コース >

めいきん生協、なるみ作業所、南医療生協、折鶴の会(豊明の被爆者の会)、九条の会、新婦人など9つの団体から80名が参加。元気に歩く鳴海作業所のみなさんに励まされて、行進しました。

「殺傷事件が繰り返され、人の命が軽んじられている今日です、私自身も忙しさに追われている毎日の中で、平和行進に参加して、人と人との思いやり、温かいものが感じられる行進でした。微力だけでも続けていきたいです。」(実行委員の浅沼さん)

鳴海作業所のみなさんは、年間の平和学習の一環として、事前の平和学習会を持って、この平和行進に参加。まとめの集會では、「地雷で象や人間が死ぬ戦争はイヤダ」と発言をされていました。

〈声、声、声...〉



- ・障害者の方とタペストリーをもって行進しました。自分の声で「戦争はイヤだ」と大きな声で叫んでいる姿に感動しました。
- ・福祉保育労もやっと旗をつなげるようになってうれしいです。それぞれの地点での集會で聞いた話を初めて参加される人々に語り続けてくれ行進の中でもドラマがあるのを感じました。
- ・うたごえで元気もりもり！

今日はうたごえのみなさんの数が多く、にぎやかなうたごえとギターやタンバリンの音に元気をもらって歩けました。声を出したり、歌ったりして、沿道の人に語りかけると元気になります。(m)

6 / 1 1 (水) コース

古知野本町小公園	柏森駅(電車移動)	犬山駅	フロイデ駐車場
8:30~8:50	10:00		10:30~11:05
各務原市民プール横(引き継ぎ集會)			
12:15~12:30			